

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成26年8月14日			
所属学部・研究科	総合科学研究科 2年次 (留学開始時点)			
留学先大学	国立政治大学 (国名：台湾)			
所属学部・学科等名	台湾史研究所			
在籍身分	修士1年			
留学期間	平成25年9月4日～平成26年6月30日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類： 居留ビザ			
	ビザ申請先： 駐日経済文化代表処			
	取得方法, 提出書類： パスポート、申請書、証明写真 (4×5cmが二枚)、留学先大学の入学許可書、健康診断書、手数料を提出。提出先は駐日経済文化代表処で、翌日には発行してもらえるが、台湾に入国後、15日以内に台北の「内政部入出国及移民署」にて再度手続きを行い、居留証 (カード) を受け取る必要がある。			
	手続きに要した日数： 最終的にカードを入国後の手続きから1週間～2週間後。			
その他必要な事前手続き				
出国年月日	平成25年9月4日			
経路	広島空港発、上海経由、台北桃園空港着			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他→友人) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	留学生向けのオリエンテーション有り。英語と中国語のグループに分かれる。キャンパス内の施設、周辺レストランの紹介、サークル員によるパフォーマンスなど。			
帰国年月日	平成26年6月30日			
経路	台北桃園空港発、広島空港着			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	約70万 (月6万の奨学金をいただきました。)	円	
	内訳	渡航費	学校負担	円
		保険料	約14万	円
		教科書代(学費)	約3万 (個人的に必要な本、資料等含む)	円
		宿舍費	約15万	円
		食費	約27万	円
		その他 (交通・旅行 費) (その他生活 費) (医療 費)	約4万 約3万 約2万 (体調を崩して病院に通った時期があったので)	円 円 円

3. 授業について			
年 1 学期	9 月 中旬	～	翌年 1 月 中旬
年 2 学期	2 月 中旬	～	6 月 下旬
年 学期	月 日	～	月 日
年 学期	月 日	～	月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	大学院の授業を単位不用で聴講しつつ、中国語のクラスを受講しました。他大学の聴講も申請すれば可能です。台湾国立師範大学の授業に出席しました。		
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること		
学術面に関する後輩へのアドバイス	せっかくなので積極的に中国語の授業をとって、台湾人と交流することをお勧めします。		
4. 生活等について			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
住居の広さ	約 m ²	同居人の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (1 人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input checked="" type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()		
住居費	1ヶ月当たり 4480 円 (現地通貨)		約 14000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()		
留学先での住居全般に関するアドバイス	基本的に火は使えない。共有のキッチンのようなスペースがあり、電子レンジ、トースター、冷蔵庫、シンクは使える。冷暖房はカードを購入して使用する。		
(2) 医療について			
1 日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> なかった		
入院した場合	により 日入院		
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった		
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()		
掛け金は	年間 約 14 万 円 補償額 死亡 円, 入院 1 日 円 その他 ()		
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名			
日常的な健康について不安が	<input checked="" type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった		

留学先国の医療事情 (日本と比較して)	健康保険カードは入国して6か月後に、その間出国しなければ申請して受け取ることができます。これがあればかなり安く医療サービスを受けることができます。日本よりもかなり安いです。私は胃カメラ検査をほぼタダでしてもらいました。	
留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	脂っこい食べ物、おいしい食べ物が多いので、自己管理に気を付けましょう。私はおいしいものを食べすぎて胃を壊しました。政治大学からだと萬芳醫院という病院が近く、お医者さんもとても親切に診断してくださるので、なにかあったときにはおすすです。台湾大學病院は有名ですが人が多すぎてなかなか予約がとれません。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 27 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 26 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input checked="" type="checkbox"/> その他 (具体的に 修士二年次で留学したため)	
現在の状況および今後の予定・進路等	修士論文を書きながら就職活動中。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫		
6. 留学準備, 留学中に役立つ書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		

学習の概要に関するレポート

私は大学院生として、政治大学の台湾史研究所に留学しました。留学先でも修士の学生として扱っていただき、大学院の授業を聴講することもできました。中国語のレベルに不安があったので、なかなか思うように授業を取ることはできませんでしたが、よい経験にはなったと思います。

一般の授業のほか、中国語のクラスにも参加しました。私が受けた中国語クラスは、前期はハイレベル1、後期はレベルアップしてハイレベル2のクラスでした。前期のクラスは日本人の私の他、韓国人一人、ドイツ人二人、ロシア人二人、イスラエル人一人の計七名の構成で、テキストを使って学習する形式でした。ほとんどクラスメートとの会話練習やディスカッションに時間が割かれました。後期では韓国人二人、ドイツ人二人、スウェーデン人一人、モンゴル人一人の計七名の構成で、ニュースを聞き取り、新聞を読み、ディスカッションをするという内容でした。前期ではまだ新聞を読むのが苦痛でしたが、後期でこのクラスが始まる頃には少しは楽に読めるようになっていて、半年間の成果を実感しました。ただし、中国語のクラスで勉強した成果というよりも、台湾の学生とともに一般教養の授業に出席して、まともにディスカッションもできない状態のまま無理矢理自分を中国語だらけの状況下においたことが、大きなバネになったように感じます。

一般の授業は、前期は学部の「台湾史」、「アジア映画」という授業と、大学院の「台湾文学研究」の授業を聴講に行きました。台湾史研究所の先生のご厚意で、台湾史の授業は学部の学生たちとともにディスカッションに参加させていただくことができました。ただ、彼らの中国語のスピードについていけず、聞き取れないし喋れないしという状態から始めたので、正直とてもつらかったです。毎週課題のレポートも提出しました。そのたびに言語交換している台湾人学生に助けてもらい、添削してもらいながらレポートを作成しました。後期では大学院の「台湾映画」の授業と学部の「近代台湾文化論」の授業を受講しました。台湾映画の授業では、前期ではまったくできなかった授業内での発言ができるようになり、少し成長を感じました。ただ、8000字のレポートを期限内に書き上げることができず、それだけが心残りです。また、台湾の大学では異なる大学間での単位互換が可能で、申請すれば他大学の授業を受けに行くことができます。留学生は単位互換の対象にならないこともあり、私も互換はできなかったのですが、師範大学の台湾文学研究所（大学院）の授業を受講しに行きました。「台湾近代社会文化理論」という授業で、社会学理論を使って台湾文化を読み解く力を鍛えることを目的とした授業でした。政治大学の学生だけでなく、他大学の学生とも交流できる良い機会なので、こういう制度は留学生も積極的に使っていくといいと思います。師範大学の授業も非常に充実したものでした。

台湾の大学に留学することはかねてからの念願で、運よくこのタイミングでHUSAの留学制度の中に台湾の大学が増えたことには非常に感謝しています。留学中、台湾大学音楽系の教授で国際交流部門にも関わっている沈冬先生とお話する機会があり、沈先生は台湾大学もぜひとも広島大学と交換留学の制度を築いていきたいとおっしゃっていました。私も、これからもっとHUSAの選択肢の中に台湾の大学が増えることを期待しています。



生活の概要に関するレポート

□大学の環境について

国立政治大学は台北の文山区という少し街中からは離れた住宅の多い地域に位置しています。近くには動物園やロープウェーなどレジャー施設があり、休日は家族連れで賑わいます。最寄りの駅はMRT動物園駅です。騒がしくなく、構内の宿舎も住みやすいですが、山の上と下にキャンパスが点在しているので、上り下りをするのが億劫に思えるかもしれません。キャンパス内には山の上と下を移動するためのバスが走っています。一回一元で乗れます。授業前、授業後の時間はぎゅうぎゅうに詰めて乗ることが多いので、私はそれが嫌でよく歩いて行き来していました。ちなみに、中国語のクラスがある語学センターは山の上の方にあります。下のキャンパスからはゆっくり歩いて10分くらいです。慣れると全然平気です。

□宿舎について

政治大学の宿舎は山の下と山の上の二か所に分かれています。留学生は基本的に山の上の第九舎か十舎に住むことになると思います。十舎は基本的に院生限定で、数年前に建てられたばかりの新しく、きれいな宿舎です。一人部屋か二人部屋が選べます。私は十舎の二人部屋に住んでいました。前期のルームメイトはポーランド人、後期はアメリカ人でした。九舎のすぐそばに食堂と福利舎（コープのような小さい売店）があり、いつも賑わっています。必要最低限の生活用品はここですべてそろえられます。より種類や値段の安いもの、こだわりのあるものを買いたければ校門近くにドラッグストア「Watson」があるのでそこで買うとよいでしょう。

□食べ物について

台湾の食べ物はおいしい！とよく聞くかと思えます。確かに色鮮やかで中華料理のようなそうでないような、日本と似たところもあるようなないような、いろいろあると思えます。自分で色々な場所に足を運んで食べ歩いてみるのが一番楽しいと思えます。政治大学周辺に関しては、台湾人の学生たちから「美食の砂漠」と呼ばれていて、その名から推測できるように、おいしいものがないと言われるちょっと残念な場所、のようです。私からすると、まあそこそこおいしいものいろいろあるんじゃないの、という感じですが、師範大学や台湾大学周辺に比べれば確かに選択肢は少なく、これぞ！というおいしいものはないかもしれません。私が体調を崩したときによく食べたのはフルーツです。台湾のバナナは安くて甘くておいしいです。学校の近くには二件果物屋さんがあります。また、校門のすぐ横には自分で好きなおかずを取って選んでいくスタイル「自助餐」の食堂があります。食欲がわかないときは、ここで少しだけおかずを買って食べていました。日本食が恋しくなっても、台湾ではいたるところに日本式のレストランがあるので心配ないと思えます。

□その他

留学は思ったよりも心身へ負担をかけるものだと思います。私は思いがけず胃を壊したりしましたが、食べもののせいだけではなく、ストレスも原因の一つだったんだと思います。留学中の生活を支えてくれるのは、なによりも現地の頼れる友人、そして離れていても連絡をとれる日本にいる友人、だと思います。政治大学も広大のようにチューター制度を設けてくれていて、台湾人の学生が一人必ず留学生のバディとしてコンタクトをとってくれます。初めの頃はそれがあってももちろん心強かったです。私の場合は以前から政治大学に友人がおり、彼らが常に勉強面でも生活面でも助けてくれたことが大きな支えになりました。台湾史研究所の事務員の方にもとても親切にいただきました。本当に感謝しています。

